

令和7年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業報告書

【事業総括】

令和4年度に策定した運営目標「子どもたちの未来を開く水族館」「唯一無二の水族館」「地域と共に歩む水族館」の実現に向け、引き続き現場の声を重視したボトムアップ型の組織運営を推進してまいりました。職員一人ひとりの主体的な参画を促し、その知見と創意工夫を施設運営に的確に反映させることで、組織の活性化と運営基盤の強化に努めてまいりました。

アクアマリンふくしま（ふくしま海洋科学館）は、令和7年7月15日に開館25周年という節目を迎えました。当館は「海を通して人と地球の未来を考える」という基本理念のもと、環境教育、生物多様性の保全及び地域連携を柱とする「環境水族館」として、事業の着実な推進に努めております。加えて、平成15年に発信した「環境水族館宣言」に基づき、「豊かな森が豊かな海をつくる」という理念のもと、森・川・海のつながりを体感的に理解できる展示及び事業の充実を図ってまいりました。

令和7年7月12日にはこれらの理念の具現化を一層推進するため、「わくわく里山・縄文の里」を改修し、開館25周年記念事業という位置づけで「わくわく・はじまりの森」としてリニューアルオープンいたしました。また、「アクアマリンえっぐ」についても、幼少期の来館者を対象とした自然体験の導入展示として内容の見直しを行い、来館者の理解促進と満足度の向上に努めました。これらの取組により当館の魅力向上と新たな来館動機の創出に資することができたものと認識しております。

いなわしろカワセミ水族館においては、当財団による指定管理開始から10年目を迎えたことを踏まえ、福島県内の希少淡水生物の展示及び保全活動を基軸としつつ、企画展「金魚美術館」の開催並びに関連ワークショップの実施により、地域資源を活用した教育普及活動の充実を図ってまいりました。さらに体験型プログラムの充実及び情報発信の強化に取り組み、リピーターの確保と新規来館者の獲得に努めました。

これらの取組の結果、入館者数は、アクアマリンふくしまが639,571人（前年度比103%）、いなわしろカワセミ水族館が75,166人（前年度比104%）となり、いずれも前年度を上回る実績を確保いたしました。継続的な魅力発信と展示内容の充実が相まって、安定した集客の維持・向上につながったものと考えております。

〈アクアマリンふくしま〉

- ・オセアニックギャラリーに「がんばっぺ！ふくしまの常磐もの」展示ブース新設
- ・世界初！バショウカジキとコバンザメのふしぎな関係を解明
- ・シン・シーラカンス展～NHKとの共同調査で迫る生態の秘密～ 開催
- ・7月12日、開館25周年記念事業「わくわく・はじまりの森」オープン
- ・コトクラゲの不思議が判明
- ・ギョギョッとサカナ★スター展～お魚たちが教えてくれる海のこと～ 開催
- ・深場の生物の生存率をあげる「水生生物収容装置」特許取得
- ・「ハッピーホリデー！冬は楽シーラカンス」開催
- ・トドまらない2026 お正月
- ・東日本大震災15年写真展 子どもたちの未来をつくる水族館
- ・3月14日、「アクアマリンえっぐ」リニューアルオープン

〈いなわしろカワセミ水族館〉

- ・ 4月25日、開館10周年
- ・ 6月14日、二瓶猪苗代町長を迎え、入館70万人達成セレモニーを開催
- ・ 10周年記念企画展「金魚美術館」
- ・ チョウカイキタハウネンエビ、マミズクラゲなど短期間しか見られない季節的に発生する希少な生物の展示
- ・ 猪苗代町内外の関係機関からの要請に応じて猪苗代周辺の生物や、職員の専門性を活かした水生昆虫、シーラカンスなどのレクチャーを多数実施

【事業内容】

I 公益目的事業

1 調査収集事業

生物収集事業

展示生物(水生生物、陸上小動物及び植物)採集、購入、輸送

① 淡水生物採集

県内淡水生物採集及び購入

② 沿岸生物採集

福島県水産海洋研究センター調査船「いわき丸」にて乗船採集

福島県水産資源研究所調査船「拓水」にて乗船採集

福島県松川浦採集・小名浜サンマリーナ アマモ、ギンポ類他を採集

③ 北方系生物採集

ニュードウカジカ等の冷水系生物を採集、輸送

④ 南方系生物採集

マイワシ、バショウカジキを採集・輸送・搬入(佐渡島)

キハダ、カツオを蓄養・輸送・搬入(奄美)

マイワシを収集・搬入

サンゴ礁、マングローブ生物を採集・輸送・搬入

チョウチョウウオ類他熱帯性海水魚を採集、輸送・搬入

⑤ 東海大学海洋科学博物館よりヒレシャコガイ、その他を搬入

⑥ 井の頭自然文化園へフェネックを搬出

⑦ 鴨川シーワールドよりトドを搬入

2 展示企画事業

(1) 飼育生物管理事業

本館、えっぐ、水生生物保全センター、屋外施設の動植物展示及び飼育管理

(2) 展示事業

水槽展示及び生物の飼育状況

令和7年度末時点での展示は以下のとおり。

① 水槽数

本館	125槽
びおびお・つながりの里	1槽
じゃぶじゃぶ・めぐりの海	1槽
子ども体験館「アクアマリンえっぐ」・釣堀	3槽

水生生物保全センター	15 槽
クウェート・ふくしま友好記念日本庭園	2 槽
わくわく・はじまりの森・金魚館	57 槽
合計	204 槽

獣舎、鳥舎	
子供ども体験館「アクアマリンえっぐ」	2 舎
どうぶつごっこ	5 舎
わくわく・はじまりの森	4 舎
合計	11 舎

② 生物の飼育状況

哺乳類	17 種	123 点
鳥類	8 種	22 点
爬虫類	6 種	11 点
両生類	23 種	250 点
魚類	427 種	36,374 点
昆虫	12 種	175 点
無脊椎	284 種	10,375 点
植物	500 種	約20,000 点
合計	1,277 種	約67,330 点

(3) 新規展示等

アクアマリンえっぐの室内を幼児が遊びながら生き物や自然について親しみ学べる展示室へとリニューアルした。

3 研究開発事業

(1) 水生生物保全センター(串本分館)管理事業

蛇の目ビーチと釣り堀に、イサキ、メジナ等の搬入を行った。

(2) 研究開発交流事業

① バショウカジキ、冷水系生物、深海性生物、魚卵採集などの研究・新規展示開発27題を実施した。

② 「飼育員の研究レポート」で年3回の内容更新を行った。

③ 学術論文

○発表

- ・「アズマモグラの糞を用いた雌雄判別法の有効性：全国動物園技術者研究会口頭発表
- ・「バンダイハコネサンショウウオ生息地の月次調査による産卵時期の推定」：第70回水族館技術者研究会口頭発表
- ・「Development and genomics of Pacific saury *Cololabis saira* サンマの初期発生と比較ゲノム解析」：日本動物学会第96回大会ポスター発表
- ・「飼育下で得られた受精卵に基づくサンマの初期発生過程」：日本水産学会春季大会口頭発表
- ・「アカウミガメ・アオウミガメ産卵北東限における上陸・産卵数の長期変動と海水温の要因」：第36回日本ウミガメ会議口頭発表

- ・「The effect of artificial rearing and stocking on the survival, growth, movement behavior of Japanese eel *Anguilla japonica*」: 1st Asian International Eel Symposium (養殖場での飼育と移送放流がニホンウナギの生存、成長、移動・分散特性に与える影響): 1st Asian International Eel Symposium 口頭発表
- ・「東北沖から見つかったクサウオ科魚類ヒレグロビクニン *Careproctus marginatus* の卵塊と孵化発育形態」: 魚類学会ポスター発表
- ・「福島県のアズマモグラにおけるミトコンドリア DNA の系統解析」: 飼育野生動物栄養研究会ポスター発表

○投稿

- ・「北海道で 31 年ぶりに再発見されたキタホソガムシ」: SAYABANE N. S.
- ・「Mitochondrial DNA 16S region and voucher specimen collection of Japanese aquatic Coleoptera and Hemiptera for environmental DNA metabarcoding analyses」(環境 DNA メタバーコーディング分析に向けた日本産水生甲虫及びカメムシのミトコンドリア DNA の 16SrRNA 領域配列と証拠標本のコレクション): ZooKeys
- ・「Phylogeographical analyses of the water shrew *Chimarrogale platycephalus* (Soricidae: Eulipotyphala) based on genetic analysis of its faeces」: Biological Journal of the Linnean Society
- ・「Degeneration of Comb Plates during Larval Stages in a Sessile Platyctenid Ctenophore, *Lyrocteis imperatoris*」(付着性有櫛動物 コトクラゲ *Lyrocteis imperatoris* (有櫛動物門クシヒラムシ目) の幼生期における櫛板の退縮機構): Zoological Science
- ・「Symbiotic cleaning relationship between a sailfish (*Istiophorus platypterus*) and remoras (*Remora osteochir*)」: (バショウカジキとヒシコバンの掃除共生): Journal of Ethology
- ・只見町のイワナ *Salvelinus leucomaenis* の集団遺伝構造: 令和 7 年度「自然首都・只見」学術調査助成金事業の助成研究の発表、只見町の紀要

④ 特許取得

水中生物の減圧症改善(治療)のための「水中生物収容装置」の特許を取得した。

4 国際連携交流事業

世界動物園水族館協会 WAZA の会員として、国際的な野生生物保全事業やアニマルウェルフェアに関する取り組みについて定期的な情報収集、意見交換を行った。

また、国際水族館会議 IAC のコミッティーメンバーとして、2026 年度に開催予定の国際会議の準備に携わった。

友好園館とは、グリーティングメール等で協力関係を維持している。

5 企画営業事業

(1) イベント等開催事業

館内外における季節演出および催事等の実施

① 花よりナメダンゴ

ナメダンゴ生体とお花の展示、装飾、ボードゲームなどグルメやバックヤードツアーと併せて広報。春、GW と分けていた企画を長期イベントに切り替え。

開催期間：3月22日(土)～5月6日(火・振休)

② 蛇の目ビーチで宝探し

砂浜に隠された「タカラガイ」を見つけた方に記念品をプレゼント。

開催月日：4月26日(土)、27日(日)、29日(火・祝)

③ アクアマリンの七夕まつり

生き物や当館キャラクターをモチーフにしたオリジナルの七夕飾りを展示。七夕チケットや七夕サンデーも併せてPRした。

開催期間：6月13日(金)～8月18日(月)

④ 里山のなかまと夏まつり

開館25周年「わくわく・はじまりの森」のオープンに関連して実施。ボードゲーム「アナグマの落とし穴」、「迷路～夜の森から抜け出せ～」 「エサをゲット～リスのわなげ～」など。屋外エリアのプログラムや25周年メニューなども併せてPRした。

開催期間：7月12日(土)～8月17日(日)

⑤ アクアマリンアートフェス2025

令和7年度より「小名浜国際環境芸術祭」から名称変更。「アート」を多角的にとらえたイベントとした。テーマを「常磐もの」とし、展示やイベントを実施した。レストランでは、常磐めひかり御膳を販売。館内のアート作品を紹介するアクアマリンふくしまアートマップも制作した。

開催期間：9月20日(土)～11月16日(日)

○キッズアート展 カエルのストーンアート

開催期間：9月20日(土)～11月3日(月・祝)

○写真展 さがそう！ネイチャーモンスター

開催期間：9月20日(土)～11月16日(日)

○金魚まつり

「もみじ金魚」の展示。10月12日(日)はいわきフラっこ品評会、即売会を実施。

開催期間：9月20日(土)～11月16日(日)

○第50回福島県児童・生徒木工工作コンクール作品展(巡回展)

主催：福島県木材青壮年協会、福島県木材協同組合連合会、福島民報社

開催期間：9月22日（月）～9月28日（日）

○第17回小名浜国際大漁旗アート入賞作品展【常磐もの】

開催期間：10月1日（水）～11月16日（日）

○サンマ美食道場【常磐もの】

開催期間：10月12日（日）

○じゅえき太郎のわくわく・いきもののイラスト教室

開催期間：10月13日（月・祝）

○正しい知識で自然と仲良く！BBQ安全講習会

開催期間：10月13日（月・祝）

○第53回我ら海の子展（巡回絵画展）

主催：一般財団法人サークルクラブ協会・公益社団法人日本海洋少年団連盟

開催期間：10月18日（土）～11月16日（日）

○第20回アクアマリンふくしま俳句の季コンテスト入賞作品展示【常磐もの】

開催期間：10月25日（土）～11月24日（月・振休）

○海の男の盆栽展

開催期間：11月8日（土）～11月14日（金）

⑥ ハッピーホリデー！冬は楽（たの）シーラカンス

12月20日のシーラカンスの日にちなみ、アクアマリンふくしまで調査・研究しているシーラカンスをテーマとしたイベントを開催。日中も楽しめるイルミネーションやスタッフによるガイドツアー等を開催。限定スイーツも販売。

開催期間：11月21日（金）～令和8年1月12日（月・祝）

⑦ トドまらない2026 お正月

「午（ウマ）年」にちなみ、トド（海馬）やウマヅラハギ（馬面剥）などを干支の生き物として紹介。来館者へのお年玉プレゼントやトドへお年玉プレゼントを実施。生き物に関連した巨大カルタ大会も実施した。

開催期間：12月27日（土）～令和8年1月12日（月・祝）

⑧ アクアマリンのひな祭り

いわき市中之作にあるちりめん細工教室「ままや」が制作したつるし飾り約1万点を展示。期間中ちりめん細工体験教室も行った。

開催期間：2月11日（水・祝）～3月3日（火）

⑨ アクアマリン春のアザラシまつり

3月22日は国際アザラシの日、当館のゴマフアザラシのたちの誕生日もみんな春であることにちなみ。アザラシをイメージしたイベントを開催。写真や動画の展示、ぬいぐるみやお花を飾ったフォトスポット、工作やゲームなどを実施。

開催期間：3月20日（金・祝）～5月10日（日）

（２）広報宣伝事業

県内外に当館の魅力を一層アピールしながらイベント開催告知、誘客促進を行うとともに、首都圏も含め各種媒体で積極的な広報宣伝活動を展開し、パブリシティによる紹介の増加を図った。

① プレスリリース

テレビ、雑誌等の取材協力を積極的に行うとともに、年間 62 件の投げ込みを実施した。テレビの取材放映が約 100 件、新聞の掲載は関連記事含め約 400 件あった。

② 各種媒体等を活用した広報

ア テレビ（CM放送）

GW向け：宮城 2 局

夏向け：県内 4 局、宮城 4 局

春休み向け：県内 4 局、宮城 4 局

イ 新聞

地元 3 紙へ「わくわく・はじまりの森」オープン、子ども体験館「アクアマリンえっぐ」リニューアルオープン告知広告を掲載。GW、秋、クリスマス、正月、2 月連休、春等の観光シーズンに広告掲載。

ウ 雑誌・フリーペーパー等広告

新エリアオープン、企画展およびイベントの告知のため、情報・広告掲載。特に小学校、幼稚園に直接配布される媒体を中心に情報提供を行った。

エ 看板

福島空港に広報看板掲出、辰巳町交差点に看板掲出

オ 公式サイト

公式サイトを積極的に運用。最新生き物情報では生物の搬入搬出や新展示の情報を、ニュース欄では季節ごとのイベントや企画展の詳細、参加体験プログラムの募集等の情報を発信した。

カ SNS

- ・生き物の搬入や新規展示、生き物の様子など展示生物に関する情報のほか、イベントの実施状況など、タイムリーな情報提供を毎日行った。

運用媒体：Instagram、Facebook、YouTube、TikTok

- ・広告配信を観光シーズンに行った。（Instagram、YouTube（3 月）

- ・インフルエンサー招聘、地元や近郊のお出かけ系のインスタグラマーを招聘し、PR を行った。（夏、春）

キ その他

- ・テレビ番組、Web メディアへの情報、素材提供。テレビは全国放送もあった。

- ・福島県広報枠を活用した広報（テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、SNS、都営地下鉄中づり、駅貼りポスター掲出）

- ・春休みにいわき市、郡山市、福島市、日立市周辺へ新聞折り込みを実施

③ ポスター・パンフレット等の作成・活用

ア 館内案内リーフレット

- ・館内案内リーフレットを来館者に配布

- ・県内外観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布

イ イベントチラシ・ポスター

- ・わくわく・はじまりの森オープン、企画展「ギョギョッとサカナ☆スター展」の開催のイベント開催に合わせ、チラシ、ポスターを作成、県内外の公共施設、観光施設、幼稚園・保育園、小学校等に配布、掲出

ウ イメージポスター

- ・通年で掲出できるファミリー向けと大人向けのポスターを制作。配布

④ 広報イベントの実施

広報を目的としたイベントの実施

ア わくわく・はじまりの森 オープニングセレモニー

わくわく・はじまりの森のオープンを記念するセレモニーを実施。オープン記念イベントやプレゼントを実施した。

開催日：7月12日（土）・13日（日）

イ 25周年記念 こども無料 DAY

小学生～高校生の入館料を無料とした。（無料入館者 621 名）

開催日：7月13日（日）

ウ アクアマリンふくしま流行魚大賞 2024

その年アクアマリンふくしまの公式 SNS (X) で話題になった生き物をノミネートし、最も話題性の高い生き物を決めるイベント。来館者投票によりゴマフアザラシのゆきまろが大賞に決定した。

投票期間：11月1日（土）～11月16日（日）

大賞発表：12月1日（月）

エ 子ども体験館アクアマリンえっぐ リニューアルオープンセレモニー

来館者を交え、くす玉開きを行った。記念グッズの配布を行った。

（３）観光誘致事業

① 地元旅館ホテル等の販売実績（枚数）

ア 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット（地域連携チケット）

- ・いわき市周辺の契約宿泊施設等限定の入館券販売枚数

契約宿泊施設等・・・14 か所（2 組合、2 グループ、10 施設）

一 般 21,244 枚 （令和 6 年度対比 2,982 枚減 87.7%）

小～高 6,069 枚 （令和 6 年度対比 1,347 枚減 81.8%）

計 27,313 枚 （令和 6 年度対比 4,329 枚減 86.3%）

イ 入館前売券販売枚数

一 般 6,160 枚 （令和 6 年度対比 241 枚減 96.2%）

小～高 1,678 枚 （令和 6 年度対比 359 枚減 82.4%）

計 7,838 枚 （令和 6 年度対比 600 枚減 92.9%）

② 有料入館者実績（人数）

ア 個人（通常料金）

一 般 180,291 人 （令和 6 年度対比 2,401 人減 98.7%）

小～高 44,074 人 （令和 6 年度対比 1,857 人減 96.0%）

計 224,365 人 （令和 6 年度対比 4,528 人減 98.1%）

イ 団体（団体料金）

件 数 568 件 （令和 6 年度対比 13 件増 102.3%）

一 般 9,085 人 （令和 6 年度対比 2,137 人減 81.0%）

小～高 2,483 人 （令和 6 年度対比 83 人減 96.8%）

計	11,568 人	(令和6年度対比	2,220 人減	83.9%)
ウ 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)				
一般	20,706 人	(令和6年度対比	3,386 人減	85.9%)
小～高	6,070 人	(令和6年度対比	1,180 人減	73.7%)
計	26,776 人	(令和6年度対比	4,566 人減	85.4%)
エ 前売券				
一般	6,114 人	(令和6年度対比	641 人減	90.5%)
小～高	1,499 人	(令和6年度対比	530 人減	73.9%)
計	7,613 人	(令和6年度対比	1,171 人減	86.7%)
オ 年間パスポート				
一般	41,182 人	(令和6年度対比	3,203 人増	108.4%)
小～高	8,986 人	(令和6年度対比	334 人増	103.9%)
計	50,168 人	(令和6年度対比	3,537 人増	107.6%)
カ 年間パスポートの提示割引				
・当館の年間パスポートの提示で割引				
(1枚の提示で5名まで 一般200円引 小～高100円引)				
一般	2,233 人	(令和6年度対比	551 人減	80.2%)
小～高	578 人	(令和6年度対比	195 人減	74.8%)
計	2,811 人	(令和6年度対比	746 人減	79.0%)
キ 障がい者				
一般	22,491 人	(令和6年度対比	2,785 人増	114.1%)
小～高	3,974 人	(令和6年度対比	517 人増	115.0%)
計	26,465 人	(令和6年度対比	3,302 人増	114.3%)

③ 減免入館実績

ア 学校団体

件数	538 件	(令和6年度対比	26 件増	105.1%)
人数	29,181 人	(令和6年度対比	1,648 人増	106.0%)

イ 幼稚園又は保育園団体

件数	199 件	(令和6年度対比	43 件増	127.6%)
人数	1,230 人	(令和6年度対比	138 人増	112.6%)

※人数には、園児の数は含まない。

ウ 市町村主催団体

件数	18 件	(令和6年度対比	5 件増	138.5%)
人数	503 人	(令和6年度対比	91 人増	122.1%)

エ 財団主催団体

件数	0 件	(令和6年度対比	0.0%)
人数	0 人	(令和6年度対比	0.0%)

④ コンビニチケット

コンビニチケット合算(通常チケット+ペアチケット)

一般	9,261 人	(令和6年度対比	2,945 人減	75.9%)
小～高	2,101 人	(令和6年度対比	280 人減	88.2%)
計	11,362 人	(令和6年度対比	3,225 人減	77.9%)

ア 通常チケット

一般	3,367 人	(令和6年度対比	369 人減	90.1%)
小～高	2,101 人	(令和6年度対比	280 人減	88.2%)
計	5,468 人	(令和6年度対比	649 人減	93.9%)

イ ペアチケット

(一般2人分のペアチケット3,500円 期間限定販売)

ペア券 2,947枚 (令和6年度対比 1,288枚減 69.6%)

人数 5,894人 (令和6年度対比 2,576人減 69.6%)

⑤ 助成券利用実績(人数)

・助成券全体の入館者数1,176人(令和6年度対比 52人増 104.6%)

ア 福島県職員助成券

一般 366人 (令和6年度対比 57人増 118.4%)

小～高 58人 (令和6年度対比 23人増 165.7%)

計 424人 (令和6年度対比 80人増 123.3%)

イ 福島県教職員助成券

一般 334人 (令和6年度対比 7人減 97.9%)

小～高 115人 (令和6年度対比 4人減 96.6%)

計 449人 (令和6年度対比 11人減 97.6%)

ウ 私学職員助成券

一般 199人 (令和6年度対比 28人減 87.7%)

小～高 92人 (令和6年度対比 6人増 107.0%)

計 291人 (令和6年度対比 22人減 93.0%)

エ 山形利用補助券

一般 11人 (令和6年度対比 5人増 183.3%)

小～高 1人 (令和6年度対比 0人 100.0%)

計 12人 (令和6年度対比 5人増 171.4%)

⑥ 電子チケット

一般 37,415人 (令和6年度対比 12,808人増 152.1%)

小～高 9,510人 (令和6年度対比 1,246人増 115.1%)

計 46,925人 (令和6年度対比 14,054人増 142.8%)

(4) 地域交流事業

積極的に周辺地域と交流を深め地域振興に貢献した。

① 小名浜まちづくり市民会議へ参画

会員として会議やイベントに積極的に参画

② 小名浜港まつりへの協賛

協賛を行うとともに、館内外における花火大会の観覧に貢献

③ ばんえつ発見の旅サポート連携事業

・磐越道沿線の文化施設と東日本高速道路株式会社及び一般社団法人日本自動車連盟(JAF)新潟支部が参加し、6月7日に新潟県東蒲原郡阿賀町で、6月8日に新潟県新潟市で合同イベントを開催

④ いわき ら・ら・ミュウ、イオンモール、イオンスタイルとの連携

・毎月1回、上記担当者との三者協議会を開催

・イオンモール・いわき・ら・ら・ミュウお買物引換券付き入館券の販売をハワイアンズで、夏期間(1,000枚)と春期間(500枚)の計2回実施

・スタンプラリー「おさかな大図鑑」実施 8月3日(日)～31日(日)

⑤ 委託販売(いわき ら・ら・ミュウ)

- ・入館前売券を、いわきら・ら・ミュウ内インフォメーションにて委託販売
 - 一 般 970 枚 (令和 6 年度対比 52 枚増 105.7%)
 - 小～高 213 枚 (令和 6 年度対比 12 枚減 94.7%)
 - 計 1,183 枚 (令和 6 年度対比 40 枚増 103.5%)
- ⑥ 近隣動物園・水族館との連携
 - 栃木・茨城・群馬・福島・山形の動物園・水族館との連携事業「ファイト 11」として、年パス相互割引やホームページ制作、連携イベントを実施
- ⑦ 公共施設との連携
 - ・いわきアリオス連携イベント
 - 11月15日(土)に NHK 交響楽団によるミニコンサートを大水槽前で実施
- ⑧ その他連携事業
 - イベント・展示
 - ・小名浜税関支署 税関展 5月24日(土)
 - ・日本財団海と日本PROJECT in ふくしま オリジナルイベント協力 7月23日(水)
 - ・江名みなと復活プロジェクト 風鈴展示 8月3日(日)～17日(日)
 - ・いわき海の俳句全国大会実行委員会第9回いわき海の俳句全国大会 8月24日(日)
 - ・天然記念物柴犬保存会 令和7年度秋季・第130回本部展 10月5日(日)
 - ・七十七銀行小名浜・平支店アクアマリン特掃隊アクト「プラごみ怪獣現る」清掃活動 10月19日(日)
 - ・日本財団海と日本PROJECT in ふくしま「出前授業」協力 10月22日(水)
 - ・岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピア中継協力 3月21日(土)

6 入館者管理事業

入館者サービスの向上事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポート販売等（来館者サービスの向上）

- ① 券売・受付業務委託
 - 券売・改札業務（専門業者委託で接客の質向上）
- ② 年間パスポート販売
 - ・入館者数の増加を目的に販売
 - ・通常販売、福島県子育て応援パスポート事業（協賛）の割引販売やプレゼント等の実施
 - ・販売実績

一 般	6,021 枚	(令和 6 年度対比	108.5%	476 枚増)
小～高	1,650 枚	(令和 6 年度対比	104.5%	72 枚増)
計	7,671 枚	(令和 6 年度対比	107.6%	548 枚増)
- ③ 開館時間の延長
 - 誘客促進と来館者の満足向上を図るため、大型連休の5月3日(土・祝)～5日(月・祝)、いわき花火大会開催時8月2日(土)に開館時間を延長し営業

7 企画展開催事業

当館の取り組みを紹介する企画展を実施した。

- ① シン・シーラカンス展 ～NHK との共同調査で迫る生態の秘密～

開催期間：6月7日（土）～8月17日（日）

開催場所：スロープ

2024年にNHKと共同で実施したインドネシアシーラカンス調査の概要写真や映像で紹介した。7月21日（月・祝）には、マリンシアターで講演会を実施した。

- ② ギョギョッとサカナ★スター展～お魚たちが教えてくれる海のこと～

開催期間：8月30日（土）～11月3日（月・祝）

開催場所：マリンホール

NHKで放送している「ギョギョッとサカナ★スター」の展覧会。さかなクンが制作したイラスト、剥製、番組映像のうち当館の常設展と関連のあるものを選定して展示。また、生体展示を行った。

- ③ 東日本大震災15年写真展 子どもたちの未来をつくる水族館

震災当時から明るく復興に取り組む姿を写した記録写真とともに、未来を担う子どもたちへの思いを込めて取り組んできた活動をパネルで紹介した。

開催期間：2月4日（水）～4月5日（日）

開催場所：スロープ

- ④ マリンホール修繕

壁紙を全面貼り換え、ピクチャーレールを設置した。

8 学習交流事業

（1）解説事業

館内での解説活動を行ない、解説員による大水槽の生き物解説や有料のバックヤードツアー等、ボランティアによるバックヤードツアーの活動を行った。

（2）学校教育関連事業

- ① ガイダンス・館内学習

来館した学校団体を対象に、施設の展示概要を紹介するガイダンスを実施した。また、来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習などを実施した。（149回、対象者数6,918名）

- ② 館外学習（ゲストティーチャー）

当財団の職員を学校や施設へ派遣し、授業を行った。

（23校、対象者570名）

- ③ 移動水族館の実施

移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察と、標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、レクチャーを行う移動水族館を実施した。（12校、対象者数964名）

- ④ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習、社会教育実習、社会体験研修の実施

中学校、高等学校、大学の生徒・学生、教員を対象に、業務体験をとおりて職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習や社会体験研修を実施した。

ア 職場体験（１日間６回実施 対象者１７名）

イ 大学生（社会人）の社会教育実習

（３日間１回実施 対象者数 ３名）

ウ 教員の社会体験研修（１日間６回実施 対象教員数３６名）

エ 学芸員実習（１０日間１回実施 対象学生数 ４名）

⑤ 教員セミナー、教員研修の実施

８月に２日間、県内の教員を集め、魚やイカなどいろいろな生き物を解剖して体のつくりを学ぶ教職員セミナーを開催し、３８名が参加した。

（３）情報提供事業

① 情報コーナー

飼育職員の最新の研究成果を紹介する「飼育員の研究レポート」

② 機関誌の発行

水族館の活動内容をはじめ、生物や海に関する様々な情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年４回発行した（発行部数 ３,５００部／回）。

９ 施設管理事業

（１）工事関係

① 破損した展望塔ガラスの復旧工事を行った。

② 経年劣化により故障した総務部内リモートビューアーの修繕を実施した。

③ 夏季酷暑対策として本館までの外部通路にミストシャワーを設置した。

（２）省エネルギー・光熱費対策

酷暑の影響下においても電力の省力化に努め、令和６年度に対し電力使用量は約１４,０００ｋｗ（約０.２％）増の約５,８７８,０００ｋｗであった。

（３）その他

① 酸素欠乏・硫化水素危険作業に対応するため、新規採用職員に対し法令に基づき特別教育を実施した。

② 法令に基づき、消防設備士甲種四類免状、クレーン・デリック運転士免許、玉掛技能講習、フルハーネス型墜落制止用器具特別教育、仮払い機の特別教育受講を推進した。

（４）主要維持管理施設

主要維持管理施設は、次のとおり。

① いわき市小名浜字辰巳町地内

ア ふくしま海洋科学館

・本館等敷地面積 56,189.52 ㎡

・本館延床面積 12,935.11 ㎡

・水生生物保全センター延床面積 925.09 ㎡

・子ども体験館「アアマリンえっぐ」延床面積 1,266.70 ㎡

・屋外トイレ面積 106.18 ㎡

・温室面積 52.54 ㎡

・わくわく・はじまりの森関連施設延床面積 1,509.56 ㎡

・屋外屋根通路棟 83.11 ㎡

・伝馬船工房 39.74 ㎡

・炭焼き小屋「たろうがま」 34.80 ㎡

イ 駐車場関係

・施設外駐車場面積 12,093.81 ㎡

- ② いわき市小名浜下神白字松下地内
海水取水・送水施設
- | | |
|----------------|-----------------------|
| ・ろ過送水棟敷地面積 | 665.54 m ² |
| ・ろ過送水棟延床面積 | 180.04 m ² |
| ・取水ポンプ棟敷地面積 | 238.29 m ² |
| ・取水ポンプ棟延床面積 | 84.43 m ² |
| ・取水管（管径 350mm） | 126.06m |
| | （予備） 126.47m |
| ・送水管（管径 250mm） | 2,924.7m |
- ③ 和歌山県串本町
水生生物保全センター分館
- | | |
|-------|-----------------------|
| ・延床面積 | 186.00 m ² |
|-------|-----------------------|
- （５）来館者用駐車場の確保
繁忙期に臨時駐車場を確保し、安全かつスムーズな整理誘導を行った。
駐車場は次のとおりである。
- ① 常時使用駐車場
- | | |
|---------|----------------------|
| オアシス駐車場 | 282台（うち身障者用5台、バス15台） |
| 公共駐車場 | 452台（うち身障者用17台） |
- ② 臨時駐車場 977台（小名浜港湾建設事務所から随時借用）
- 駐車場合計 1,711台

10 展示施設改修事業

わくわく里山・縄文の里を改修し、「わくわく・はじまりの森」を7月15日にオープンした。それまで来館者が立ち入れなかった屋外の自然再現エリアを開放し、里山の景観を整備した中に生き物やその痕跡をさがして見つける展示を配置したり、小さい子どもも安全に川遊びができる親水エリアを設けたりすることで、来館者が自然体験できる施設とした。

また、既存のボックスカルバートを利用したトンネル通路は生物多様性を解説する展示室として、生き物の展示やハンズオンと解説パネルを設置した。

11 カワセミ水族館事業

猪苗代町緑の村管理センター、釣堀・養魚鑑賞池、淡水魚館の3施設の総称を「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」として、福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開した。

また、現淡水魚館内に希少淡水生物繁殖保全水槽を設置し、福島県内の希少淡水魚、は虫類、両生類、鳥類、哺乳類等の保全活動と調査研究を行い、情報発信に努めた。

（1）施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター	736.00 m ²
---------------	-----------------------

猪苗代町緑の村釣堀、養魚鑑賞池	10,000.00 m ²
-----------------	--------------------------

猪苗代町淡水魚館	605.10 m ²
----------	-----------------------

（2）展示事業

- ① 福島県の淡水生物の展示
- ② 猪苗代情報パネル展示
- ③ カワセミ、カワガラス、キセキレイ展示
- ④ 希少淡水魚繁殖保全水槽
- ⑤ 県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示水槽
- ⑥ 福島県の両生類の展示水槽
- ⑦ ユーラシアカワウソの展示
- ⑧ カワネズミの展示
- ⑨ カヤネズミ他ネズミ類4種の展示
- ⑩ 国外・国内外来種の淡水水生生物の展示
- ⑪ 金魚約30品種の展示
- ⑫ 企画展「金魚美術館」「猪苗代湖～ラムサール条約の湖」実施
- ⑬ シーラカンス写真展「シーラカンスギャラリー」開催

(3) 体験プログラム

- ① 釣り体験の実施、館内観察オリエンテーリングの実施
- ② タッチング水槽
- ③ オリジナルエコバック作り、起き上がり小法師絵付け体験他ワークショップコーナーの設置
- ④ 木育キッズコーナー「森のこぼこ」
- ⑤ 企画展関連イベント（バケツDE金魚、あみあみDE金魚、似顔絵DE金魚、掬いDE金魚、植物DE金魚、染物DE金魚、アロマDE金魚、みがきDE

(4) 情報発信

各種展示及びホームページやTwitter等のSNSを通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水魚の繁殖・保全を来館者に対して情報発信した。

Ⅱ 公益海洋文化学習振興事業

1 海洋文化推進事業

(1) シーラカンス調査事業

シーラカンス調査を紹介するイベント・講演を館内外で実施し、アクアマリンふくしまのシーラカンス活動を紹介した。

インドネシア研究機関と今後のシーラカンス研究体制について協議した。

(2) 海洋環境保全事業

マスコットバルーンを使用した海洋プラスチックごみ啓発プログラムを実施し、海岸での清掃活動を実施した。

2 スクール開催事業

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

(1) スクールの開催

「飼育員と学ぼう」と題して飼育員が様々なテーマでレクチャーを行なう体験プログラムを、事前募集した参加者を対象として開催した。生き物の知識を深めたり、餌やりなどで生き物に接するプログラムのほか、川や海など野外でのプログラム、館内で宿泊を伴うプログラムを実施した。

- ・飼育員と学ぼう : 18回 246名
- (2) 缶詰づくり体験ほか
館内での体験プログラムは缶詰づくり体験、エサやり体験などを実施した
- (3) 工作コーナー
自然や生き物にちなんだものをテーマとした工作体験を開催した。
バスボム、おさかなキューブ、カラフルクラゲ、ハーバリウム、など
- (4) 釣り体験
アクアマリンえっぐの釣り場において魚やエビを釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の機会を提供した。
(参加者数 16, 832組)

3 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進し、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。技術向上のために接遇研修や他館視察研修を実施した。

第1期～第26期ボランティア更新者	155名
第27期新規ボランティア登録者	24名
登録者数(令和8年3月31日現在)	179名

4 移動水族館事業

主催者要請に応じ、移動水族館専用車（通称：アクアラバン）を派遣し、各地域のイベントや県内外の文化施設のイベントに出展。

海の生物に親しむ機会を提供し、当館への興味、関心を高めてもらうこと(営業・PR活動・広報宣伝)と併せて、開催地の地域振興(地域交流)に貢献。

出展回数	13回	(令和6年度対比	±0回	100.0%)
見学者数	22,746人	(令和6年度対比	527人減	97.7%)

Ⅲ 収益事業

1 ミュージアムショップ運営

「アクアマリンショップ Uminosato」及び「ミュージアムショップ UMINOS」の2店舗で、アクアマリンふくしまオリジナルグッズなどの商品を販売した。

売上額 279,585,037円

(令和6年度実績 261,864,833円 前年度比 17,720,204円増 106.7%)

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館のショップでは、飼育展示生物をモチーフにオリジナル商品をカワセミ館で開発販売し、収入確保に努めた。

売上額 9,532,580円

(令和6年度実績 9,328,950円 前年度比 203,630円増 102.2%)

2 レストランの運営

- (1) レストランアクアクロス

数が多く資源量の安定した魚介類を食べる運動「HAPPY OCEANS」に取り組み、オリジナルメニューの提供や、運動の趣旨及び各魚種の資源量等を記載したリーフレットの提供を行った。

売上額 75,292,333 円

(令和6年度 70,696,650 円 対前年比 4,595,683 円増 106.5%)

(2) 露店 The Roten Café Breeze

南テラスにて軽食を提供した。

売上額 2,467,472 円

(令和6年度 2,487,324 円 対前年比 19,852 円減 99.2%)

(3) 寿司処 潮目の海 HAPPY OCEANS

資源の持続的な利用をテーマに大水槽前で寿司を提供した。

売上額 1,230,201 円

(令和6年度 1,238,884 円 対前年比 8,683 円減 99.3%)

(4) キッチンカー

ゴールデンウィークなどの繁忙期にお祭り広場で軽食を提供した。

委託料収入 2,278,653 円

(令和6年度 1,804,382 円 前年度比 474,271 円増 126.3%)

3 イブニングイベント事業

財団が推進するハッピーオーシャンズの理念に基づき、会食等を通してその食材である魚介類等に関する認識を深め魚食の啓発を行うとともに、会員相互の情報交換と親睦を図ることを目的として「肴を旨く食べる会」を開催した。

年3回開催 参加者数計 83 人 収益 415,000 円

(令和6年度 91 人 前年度比 8 人減 91.2%

613,000 円 前年度比 198,000 円減 67.7%)

IV 事業報告の附属明細書

令和7年事業年度においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しておりません。

【運営体制の充実を図るための取組】

多角的な視点による適正な法人運営の確保を図るため、教育関係者、地域の有識者など、外部の各分野に精通した者を理事、監事及び評議員として選任するよう努めている。

また、役員と事務局間の円滑な意思疎通を確保するため、理事会及び評議員会において、理事長が運営方針及び当面の課題等について説明を行うとともに、役員との意見交換を実施している。

さらに、月例報告書及び機関紙「AMF NEWS」の定期送付を実施し、情報共有の徹底を図っている。

理事会 年5回開催

令和7年6月、6月（書面）、令和8年1月（書面）、3月（書面）、3月

評議員会 年2回開催

令和7年6月、令和8年2月（書面）

月例報告

令和7年4月～令和8年3月 毎月月例報告書を送付

機関紙「AMF NEWS」

令和7年5月、10月、令和8年2月（年3回）送付